こころ便り

第265号
令和4年4月

〒679-4343
兵庫県たつの市新宮町大屋六六八-十二
株式会社 新宮運送グループ
代表／木南 一志
kiminami@shingu.co.jp
電話 0791-75-1212

新宮運送ホームページ

心で知る

桜が突然、咲き始めた印象で春の実感がやってきました。ロシア・ウクライナの情勢は刻々と動いてはいますが、人間の悲しい性を感じさせるものでした。平和を祈らない民族はいないはずですが、どれほど歴史を重ねても人間は争いを始めてしまうものなのでしょう。

報じられる機会は少ないですが、中東では今も闘いは続いているはずです。それも一つの神を信じる人たちによって、その歴史は二千年にも及ぶとか。

世界平和の実現のために
「ゴミ拾いをしよう！」
と呼び掛けています。

ゴミを拾う経験をした人は、「こんなところにゴミを捨てやがって！」と思いながらも拾い続けていると、いつの間にか心が落ち着いてくることが分かります。自分が社会を美しくしているという実感が満ち満ちてくるからです。そして、この経験を続けていくと、出会った人があいさつを交わしたり、ありがとう、ごくろうさまと声をかけられたりすることによって、町を美しくしているという誇りが自信となって自分の中に育まれていくことになります。

続けていくと、その心は「してやったぞ！」というような傲慢に膨れ上がるものではなく、穏やかに落ちついたものになっていくのです。捨てた人を責めているようでは本物ではありません。

そう考えると、戦争を始めてしまうのはゴミを捨てる人ということになります。自分のことしか考えていない、先のことが見えず今さえ良ければいい、世の中は金しか信じることはできないなど、プーチン大統領を責め立てる材料のようになってしまいますが、大切なことは、誰かを責めることではなく全体の雰囲気を穏やかに変えていくということではないかと思うのです。

お互いが譲り合うという行動が「ありがとう」の感謝へと変化して、「お互いさま」という助け合いの文化が生まれてくる。日本人が大切に伝えてきたことではないのでしょうか。

そんな理想論で世の中が変わるわけがないと笑われてしまいそうですが、どんなに笑われても、私はやり続けていくという決意は変わりません。これまでもそうでしたが、これからも良い世の中にしていくために実践していきます。

戦争反対を叫んでも戦争はなくなりません。実行すべきは自分自身。何のためにやるのか、どれくらいの覚悟を持ってやるのか。

すべて、決めるのは自分自身なのです。

被災地にこころを寄せながら

木南　一志　拝

NPO法人　愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせていただいております。

尋常小學修身書　巻六　兒童用

第二十二課　勤勉

伊能忠敬は上總に生まれ、十八歳の時下總佐原村の伊能氏の家をつぎました。伊能氏は代々酒や醬油を造り、土地で評判の資産家でしたが、その頃は大分家が衰へてゐました。そこで忠敬は、どうかしてもとのやうにしようと思つて、一生けんめいに家業に勵み、自分が先に立つて儉約したので、家も次第に繁昌して、四十歳になる頃には、もとよりも豐になりました。それで關東に二度も飢饉があつた時、二度とも金や米をたくさん出して、困つてゐる人々を助けました。また公職について村のために盡しました。

五十歳になると家を長男に讓りました。しかしそのまま樂をしようとはせず、これから一心に學問をしようと思つて江戸に出ました。忠敬はもと〳〵天文・暦法が好きで、これまでも仕事のひまには少しづつ勉強をつづけて、その知識がかなり深くなつてゐました。江戸に出ると間もなく、高橋至時といふ天文學者をたづね、その精密な西洋暦法の話を聞いて大そう感心し、自分より十九も年下の至時の弟子になつて、數年間倦まずたゆまず勉強したので、同門中及ぶものがない程學問が上達しました。

五十六歳の時、幕府の許を受けて北海道の東南海岸を實地に測量し、地圖を作つてさし出しました。その後、幕府の命で諸方の海陸を測量することになり、寒暑をいとはず遠方まで出かけて、とう〳〵七十二歳で日本全國の測量をすませました。それからもからだの自由がきかないやうになるまでは、大中小三種の日本地圖を作ることにつとめました。我が國の正しい位置や形狀が始めて明らかになつたのは全く忠敬の手柄です。

格言　精神一到何事カ成ラザラン。